

宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
 ファシリティマネジメント I
 本江正茂

第11回：サステイナブル、Long Life, Loose Fit, Low Energy

Sustainable [形] 1 支持できる. 2 持続できる; 耐えうる. ・～ development 持続可能な開発.

Sustainable Development

Sustainable development is that which meets all the needs of the present without compromising the ability of future generations to meet their own needs. (The U.N. Brundtland Commission 1987)

「将来世代が彼らのニーズを満たすための能力を損なうことなく、現在世代のニーズを満たすこと」

weak sustainability 自然資産と人工資産の合計が減少しなければ良い

strong sustainability 自然資産には人工資産では代用できない部分があるから、一定の自然資産は必要

■ミニワークショップ：宮城大学サステイナブルデザイン行動計画の策定

1. ひとりひとり、下記の資料を読み、宮城大学のFMerとして、Sustainable Development 実践のためにできる具体的なアイデアを、(1)3つのL・(2)4つのRの二つの視点から、それぞれ3つあげる。(20分)

3つのL: Long Life, Loose Fit, Low Energy

4つのR: Reduce, Re-use, Recycle, Recover

資料：

- (1) 1992リオ地球サミットにおいて。当時12歳のSevern Suzukiが行ったスピーチ。
- (2) 環境共生を目指して
- (3) サステナブル・ビルディング普及のための提言
- (4) JIA サステイナブルデザイン・ガイド
- (5) Benefit of Sustainable Design

2. グループで各自のアイデアを発表しあい、各自のアイデアをその場で組み合わせたり、改良させたりして、グループを代表するアイデアにまとめる。(15分)

3. 各グループの代表者が全体で発表。(15分)

■参考文献

岩村和夫監修『サステイナブル建築最前線』ビオシティ、2000

川村健一、小門裕幸『サステイナブル・コミュニティ』学芸出版社、1995

NTT都市開発、NTTファシリティーズ編著『次世代建築を解く七つの鍵』彰国社、2002

日本建築学会地球環境委員会サステナブル・ビルディング小委員会「サステナブルビルディング普及のための提言」1999年3月

日本建築学会地球環境委員会ホームページ<<http://news-sv.aij.or.jp/tkankyo/s0/sc06b.htm>>

新日本建築家協会編『生き続ける建築のデザイン』彰国社、1995

Edwards & Hyett, Rough Guide to Sustainability, RIBA, 2001.

Eric Teicholz ed., Facility Design and Management Handbook, McGraw-Hill, 2001

Address to the Plenary Session, Earth Summit, Rio Centro, Brazil 1992 <<http://www.sloth.gr.jp/Severn-Espeech92.htm>>

マーク・ハーツガード『世界の環境危機地帯を往く』忠平美幸訳、草思社、2001
ビョルン・ロンボルグ『環境危機をあおってはいけない』山形浩生訳、文芸春秋、2003



"Benefits of Sustainable Design" を読むために

obstacle	障害
absenteeism	無断欠勤
correlating	相関する
comprise	構成する
conservation	保存, 保持
compliance	適合性
approval	同意, 承認
expedite	はかどらせる
stewardship	責務

●授業評価アンケート

Webから入力してください。

入力期間 6/26-7/14

追加修正期間 7/18-24

宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
ファシリティマネジメントⅠ
本江正茂

平成18年度 期末レポート課題

本レポートの内容をもって成績評価を行うので、単位取得を希望する学生は必ず期限までに提出すること。

■課題

- (1)ファシリティの不適当な使われ方を問題としている新聞記事をひとつ取り上げ、
- (2)その問題点に関わる新たな論点を加えて、議論を整理した上で、
- (3)ファシリティの使われ方に関する改善案を提示せよ。

■採点基準

採点にあたっては、全体の議論の論理的整合性および追加論点や改善案の独創性を重視する。
他のレポート提出者と、元記事が重複した場合は減点する。

■体裁等

A4用紙、縦使い、横書き。左上をホチキスでとめる。

文量に上限は設けない。

必要に応じて図版を使用することが望ましい。

- (1)の元になった記事の複写を添付すること。

■締切と提出場所

2006年7月31日（月）17時までに、4階受付ポストに投函すること。

■その他の注意事項

レポートは返却しないので、各自事前に複写しておくこと。

優れたレポートについては、内容をWWW上で公開する場合がある。